

東京都小学校学校行事研究会の取組

東京都小学校学校行事研究会 副会長
大田区立北糀谷小学校長
細井 鏡子

東京都小学校学校行事研究会では、研究テーマを「よりよい社会を自ら築く力を育てる学校行事の創造」(仲間)「本物」「感動」そして「共生」として研究を推進してきました。東京都を島しょを含む東西南北の四地区に分け、研究発表会、会報や研究集録の作成等をしております。

今年度は、南地区と西地区が参集での研究発表会を実施しました。南地区は文部科学省初等中等教育局 視学官 安倍恭子先生、西地区は國學院大學人間開発学部 教授 杉田洋先生を講師としてお招きし、これからの学校行事について、ご指導ご助言をいただきました。学校生活の節目、節目に子供たちの目標となっている学校行事の重要性を再確認し、各校での実践に向けた意欲を高めることができました。

現在は、次年度に開催される全国大会東京大会に向けて、一致団結して準備を進めております。大会主題は、「多様な他者と協働し、楽しく豊かな生活をつくる これからの学校行事の創造」(ウェルビーイング)の深化を目指してです。会場となる、羽田イノベーションシティにて、皆様のお越しをお待ちしております。よろしくお願いたします。

令和六年度活動予定

- 総会
 - 令和五年度活動報告
 - 令和五年度決算報告
 - 令和六年度組織
 - 令和六年度事業計画案
 - 令和六年度予算案
- 理事会
 - 八月六日
 - 三月中旬(オンライン等)
- 会報
 - 六月、三月発行
- 第五十八回全国大会について
 - 令和六年度は、左記のように、東京大会を計画しております。

【日程】

- 令和六年八月六日(火)
 - 六日(火)
 - 十時 理事会
 - 十三時 開会式・総会
 - 十四時 五十分アトラクション
 - 【記念講演】
 - 講師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田洋先生
- 令和六年八月七日(水)

記

七日(水)

- 九時 分科会提案
- 五分科会 十提案予定
- 【会場】
 - 羽田イノベーションシティ
 - コングレススクエア羽田
 - 京浜急行電鉄空港線・東京モノレール「天空橋」直結
 - 「羽田空港」第3ターミナル駅より1分
 - 「羽田空港」第1・2ターミナルより4分



羽田イノベーションシティ

【その他】
申し込み方法や受付等、詳しいことは、順次、ホームページ等に掲載いたしますのでご確認ください。

事務局からのお礼とお願い

日頃より、全国小学校学校行事研究会の運営にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。また、今回の会報を発行するにあたり、全国の皆様から実践報告が寄せられましたことにつきまして、お礼申し上げます。

さて、年度末・年度初めにご提出いただいております「理事報告書」は名簿の作成と組織を運営するために重要な報告書となっております。ご退職や異動がある場合は、必ず引き継ぎをして、ご提出してください。

今後も全国の都道府県をつなぐ学校行事、唯一の組織としての役割を果たしていきたいと思っております。引き続き、よろしくお願申し上げます。

全国小学校学校行事研究会
ホームページアドレス
<https://zensyo-gyou.com/>

「理事報告書」のフォーマットもこちらに入っております

〈問い合わせ〉事務局
144-0032 大田区北糀谷 2-2-5
大田区立北糀谷小学校
電話：03-3742-5371
メール kitakoujiya-es-cms@ota



題字・田南勝次氏筆

学校行事研究の絆を 広げていきましょう

全国小学校学校行事研究会会長
東京都武蔵野市立第五小学校校長
鈴木 恒雄



はじめに、このたびの能登半島地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。心からお祈りいたします

さて、昨年八月三日・四日に行われた第五十七回全国小学校学校行事研究会全国大会九州・熊本大会は、四年ぶりの参集による開催となりましたが、全国から約二〇〇名の参加があり、盛会のうちには終了しました。

大会初日の開会式では、文部科学省初等中等教育局長・藤原章夫様のご祝辞を同視学官・安倍恭子様がオンデマンドで代読してくださいましたのはじめ、ご来賓の方々が私たちが力強く後押ししてくださいました。また、國學院大學教授・杉田洋様の参加者の涙を誘う

感動的なお話は、学校行事を支え充実させていく勇気をいただきました。

二日目は、熊本城下の二会場で、五分科会による計十の提案について熱い議論が行われました。提案予定だった沖縄県の皆様も、台風の影響で会場にお越しいただけなくなりましたが、スタップの皆様も迅速な対応により、オンラインによる参加が可能となったことは誠に有難いことでした。

大会二日間を通して、参加者からは、「子供の主体的な姿をつくるには、学校行事がどれだけ大切か再確認しました。」「子供の思いや願いがあつてこそ学校行事だと思いました。」「今後大会に参加したいと思いました。」「など、たくさんの感想が寄せられ、大会が有意義であったことが伝わってきました。また、これからを担う若い先生方の参加が目立ったことも大変嬉しいことでした。

学校行事をこよなく愛する全国の会員の皆様のご支援・ご協力と、松永裕子実行委員長を中心とした地元九州・熊本の皆様のご尽力に改めて深く感謝申し上げます。

令和六年度は、八月六日・七日に、第五十八回東京大会を開催予定です。火の国熊本で再び結ばれた学校行事研究の絆を、皆様の手で東京につなげ、更に強く大きく広げてまいります。

第五十八回 小学校学校行事研究会全国大会 東京大会に向けて

東京大会 大会実行委員長
東京都調布市立飛田給小学校校長
松田 隆



これまでは、四年に一度、東京で開催してきた全国大会ですが、第五十八回大会は、コロナ禍における中止、延期を挟んで、平成三十年八月月以来、久しぶりの実施となります。

ようやく行動制限が緩和され、かつての生活が取り戻されつつある今日ですが、教育活動の一つ一つについて、「従来通りに戻す」という考え方はなく、「コロナ禍で得られた気づきを生かして、新たな形をつくり出していく。」という視点が大切であり、それは学校行事についても同様です。

そこで、今大会の研究主題を「多様な他者と協働して 楽しく豊かな生活をつくる これからの学校行事の創造」(ウェルビーイング)の深化を目指してとしました。

子供たちはもちろんのこと、関わるすべての人たちのウェルビーイングが深まることへの願いを込めて設定したものです。

今、特別活動(TOKKATSU)は世

第五十八回 小学校学校行事研究会 全国大会 東京大会

- 【大会テーマ】
 - 「多様な他者と協働して 楽しく豊かな生活をつくる これからの学校行事の創造」(ウェルビーイング)の 深化を目指して
- 【日程】
 - 令和六年八月六日(火)
 - 八月七日(水)
- 【会場】
 - 羽田イノベーションシティ
 - コングレススクエア羽田
- 【講師】
 - 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田洋先生

北海道特別活動研究会の取組

北海道特別活動研究会 会長
札幌市立真駒内桜山小学校校長

小田 英人

北海道特別活動研究会では、十九次研究の一年目として研究主題を「多様性を認め、互いに成長し合う関係を築く特別活動」に設定し、研究を進めています。令和五年度は、「第五十一回北海道特別活動研究会 上川・旭川大会」を旭川市で開催しました。小学校での公開授業、課題別の分科会を通して研究を深めることができました。コロナ禍を経て、運営の在り方も工夫し、公開授業は合同して実施。また、課題別分科会と安部視学官による講演会は、オンラインを活用して行い、「確かな研究の積み上げを実感できる大会」となりました。

特別活動の実践にあたっては、これからの予測困難な時代をたくましく生きていく子供を目指して、「多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力の育成」や「希望や目標をもって未来を切り開いていく力の育成」を中心に据えた実証的な研究を推し進めています。様々な集団活動を通して、同調圧力に押し流されることなく、自分の考えを主張し、異なる意見や考えを認め合いながら成長し続ける子供の姿を大切にしています。

今後とも、本研究会への御支援と御協力をお願いいたしますとともに、関係各位の益々の御発展を御祈念申し上げます。

香川県小学校教育研究会特別活動部会の取組

香小研特別活動部会 会長
高松市立古高松南小学校校長

橋本 康裕

香川県小学校教育研究会特別活動部会では、研究テーマを「将来に夢と希望をもち、社会で生きる力を育てる特別活動の役割とあり方」文化を創造し、集団をつくる深い学び」として、実践研究を進めてまいりました。

今年度は、令和元年度の夏以来、実に四年ぶりに夏季研修会を集合研修として実施することができました。この間、新型コロナウイルス感染症対策のために令和四年度の香小研統一研究発表会も誌上発表となり、実践交流や討議による研修を深める場が大きく制限されました。

また、働き方改革の流れの中、年間二回あった郡市持ち回りの自主研修会も終止符が打たれ、あわせて、夏季研修会の持ち方も半日開催となるなど、大きな逆風にもさらされました。しかし、徐々に日常を取り戻す中、夏季研修会で再び県下約四百名の先生方が一堂に会して実践交流したり、文部科学省の安部恭子視学官のご講演を拝聴できたりしたことは、今後の香川の特別活動の再スタートとして前向きに捉えられたい機会となりました。

私たちは、これから再び持続可能な特別活動につなげていくために、失われた数年とマイナスイメージを払拭し、新たに学校文化を創造する機会と捉え進んでいきます。

大阪府小中学校特別活動研究会の取組

大阪府小中学校特別活動研究会会長
東大阪市立枚岡東小学校校長

廣瀬 浩

池田市立秦野小学校教諭

岡村 英樹

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、本年度は、運動会の在り方を検討する、初めての年度となった。本校でも、運動会開催にあたり、運動会がもつ教育的効果を踏まえ、えで、どのような形で実施するかを、全教職員で話し合うこととなった。

本校のコロナ禍前の運動会は、全校競技や応援合戦の他、学年ごとに「団体演技」「団体競技」「個人走」の3種目を午前・午後の1日で開催していた。コロナ禍中の運動会は、感染予防措置により、「団体演技」「個人走」の2種目を、午前中のみという制限のある中で開催していた。

運動会を担当する保健体育部からは、(A案) コロナ禍前の形と同じく3種目に戻しての1日開催、(B案) コロナ禍と同じく2種目で午前中のみの開催、という2つの案が示された。職員会議で論点になったのは、①数年間制限のある形での運動会しか知らない子ども達に、団体競技を体験させないまままで良いのか、②猛暑の中での1日開催は、特に低学年にとっては体力的に厳しいのではないか、というものだった。さまざまな議論を経て、子ども達に団体競

技を体験させ、仲間と1つの目標に向かって協力したり、さまざまな人と協働する中でちがいを尊重し合ったり、創意工夫をしたりする経験を積ませたい、という教職員の願いが合意形成された。そして、運動会をファーストステージ、セカンドステージの2部制で開催することになり、両日とも保護者や地域住民の参観は可能とした。

ファーストステージでは、学年ごとに団体競技のみを2時間(2コマ)以内に行う。その2日後のセカンドステージでは、学年ごとの団体演技と個人走、応援合戦を午前中開催で行うことになった。代表委員会からは、全校児童で2つに分かれて競うよりも、みんなで楽しめる演技を入れたらという願いが出され、セカンドステージで全校ダンスを行うことになった。当日は、全校児童に加え、子ども達から保護者や地域住民の方にも呼び掛けて、本校に関わる全ての人たちと一緒に、ダンスを踊ることができた。その様子は、まるで一人ひとりが制限なく表現する喜びを体現しているようであった。

また、熱中症対策としては、2部制での開催に加えて、地域コミュニティや中学校に協力を仰ぎ、全校児童がテント下で応援できる環境を整備することもできた。

このように、教職員と子ども達の願いをもとに、開催方法や実施内容を創意工夫することで、運動会がもつ教育的効果を十分に発揮させることができる。来年度は、本年度の反省をもとに、よりよい運動会の在り方を、さらに追求していきたい。

横浜市小学校学校行事研究部会の取組

横浜市小学校学校行事研究部会 部長
神奈川県横浜市立上末吉小学校校長

内田 宏平

生成AIの飛躍的発展を受けて、社会の在り様が大きく変容する未来が現実的に見えています。そのような社会においては、自らの生き方を選択する力が不可欠だと考えます。そこで、本研究部では今年度の研究テーマを「個別最適な自己決定の機会を重ね、社会参画につなげる学校行事の創造」持続可能な学校文化の中で、すべての子の自己有用感を高める」とし、研究を推進しています。

コロナ禍を経て、教職員の働き方改革が進んだ学校が多いと思いますが、その中で行われた行事の精選が、果たして、学校として目指す子どもの育ちにつながるものなのか、子どもの成長を目指すものになっているのか、各校の実践提案を基に議論を重ねています。また、子どもが自己決定する機会を活動中につなぐと設けられているかということについても考えています。情報共有の場では、各校における持続可能な実践について伝え合うとともに、教育政策推進課の指導主事から横浜市としての動向を伺う機会を設けています。

また、学校行事で活用できる市内施設の見学や各所で実践を積み重ねている方々による講演等も行っています。

非認知能力の育成を学校教育活動の中で目指していくのならば、学校行事は不可欠だと考え、今後も研究を続けます。

奈良県小学校特別活動研究会の取組

奈良県小学校教科等研究会特別活動部会会長
奈良県五條市立五條小学校校長

延原 喜久子

奈良県小学校教科等研究会特別活動部会では、本年度も研究主題を「集団活動を通して、一人一人が輝く特別活動の創造」よりよい人間関係や社会を築く子どもの育成」とし、研修を推進してまいりました。

本年度は、「一人一人が輝く学級活動(1)」「一人一人が輝く学級活動(2)」「一人一人が輝く学校行事」の三つの分科会に分かれて研修を進めています。十一月には第六十一回目となる県研究大会を県内の小学校で開催し、特別活動に熱い思いと深い関心をもった県下各地の先生方と研修を深めることができました。また、八月に行われた近畿及び全国特別活動研究協議大会 大阪大会にも本会から多数参加させていただけでなくことができました。全国の豊かな実践に学ぶとともに、多くの先生方と協議を深めることができ、特別活動の素晴らしさを改めて実感することができた二日間となりました。令和八年度には奈良県において、近畿特別活動研究協議会奈良大会が開催される予定です。今後も真摯に実践を積み重ね、県内の特別活動のより一層の充実を図るとともに、近畿大会の開催に向け、「チーム奈良」で取り組みをまいりたいと思っております。

大阪市小学校教育研究会学校行事部の取組

大阪市小学校教育研究会学校行事部部長
大阪市立生魂小学校校長

赤石 美保子

大阪市小学校教育研究会学校行事部では、研究テーマを「主体的・対話的で深い学びを生み出す学校行事の創造」なま・ほんまもんによるかんどをを通して」として、研究を推進し、広く発信してまいりました。

八月の熊本での全国大会では、「儀式的行事」の研究成果について、また、同月に大阪で開催した特別活動の全国(近畿)大会では、「勤労生産・奉仕的行事」の研究成果について報告いたしました。併せて、十一月には、地域学校協働活動として地域との連携の在り方を研究した「文化的行事」の研究成果を大阪市立生魂小学校で公開行事と共に発信することができました。年明けの二月には、「健康安全・体育的行事」と「遠足・集団宿泊的行事」の研究成果についても、大阪全市の管理職・教職員に向けて、発信していく予定です。

コロナ禍を経験し、その間本市においても、学校行事では当たり前と思っていたことができなくなり、大きな制限と縮小や中止を止む無くされました。しかしながら、この経験が、改めて教育活動の意義を見直す機会となったことは言うまでもありません。今こそ、今後の時代に向けての研究の価値も増していると考えます。今後も研究を深めてまいります。

全国青少年体験活動推進フォーラム

「ウェルビーイングを実現させる体験活動」
「全ての子どもたちに」
新潟県小学校学校行事研究会事務局

小林 朋広

新潟県では、国立妙高青少年自然の家開催の全国青少年体験活動推進フォーラムを研究会に位置付け、教員をはじめ百三名の皆様に参加していただきました。

前半の鼎談では、「ウェルビーイングを実現させ、夢や希望を与える体験活動」をテーマに、信州大学副学長の平野吉直様、競泳のオリンピック種田恵様、東京大学先端科学技術研究センター客員上席研究員の上松恵理子様から、ご自身の体験を交えながらご指導をいただきました。夢や希望につながった体験活動の内容、ウェルビーイングは自分だけでなく周囲の皆も喜び、他者の頑張りも認め合うものであってほしいこと、体験格差を無くすために公教育を担う学校が自然体験活動を教育課程に位置付ける必要があること等実践のヒントを学ぶことができました。

後半は、学校教育、幼児教育、ICTの活用、三分科会に分かれて、実践発表と話し合いを行いました。学校では短い時間でも職員間で話し合い、体験活動の目的意識を明確にして一体感をつくり出すこと、管理職による体制づくりが重要であること、幼児の自然体験は乗り越えさせることで主体性が向上すること、リアルとバーチャルの両方の体験活動を今の子供のことを思いどのように提供していくかきちんと考えて行く必要があること等について気付かせていただきました。